温室効果ガス観測技術衛星
「いぶき」

地球温暖化の監視役

1. こんな形・性能の衛星です

<table>
<thead>
<tr>
<th>主要諸元</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>設計期間</td>
<td>2008（平成21）年1月23日 12:54</td>
</tr>
<tr>
<td>火星・総合</td>
<td>本体</td>
</tr>
<tr>
<td>機体質量</td>
<td>1.850kg</td>
</tr>
<tr>
<td>造形状態</td>
<td>本体</td>
</tr>
<tr>
<td>昇度</td>
<td>666km</td>
</tr>
<tr>
<td>昇度角</td>
<td>98度</td>
</tr>
<tr>
<td>傾斜</td>
<td>太陽同期帯区制轨道 (日傾角: 3日)</td>
</tr>
<tr>
<td>周期</td>
<td>98分</td>
</tr>
<tr>
<td>登計番号</td>
<td>5年</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. 開発の目的と役割

1. 京都議定書への貢献
2. 将来、国別の二酸化炭素の排出量・吸収量を評価できる技術基盤の確立
3. 将来の地球観測衛星、後続機に必要な技術開発

3. こんな性能、なにげない！

「いぶき」のここがスゴイ！

世界最高レベルの観測能力

温室効果ガス観測センサー（TANSO-FTS）

二酸化炭素の増減量はとてもわずか。これは人間の体で言うと、髪の毛一本が抜けたかどうかほんの小さな変化です。それを660kmも離れた上空から観測するために、「いぶき」が搭載する温室効果ガス観測センサーは最新技術の結晶とも言える性能を実現しました。同様の人工衛星プロジェクトを進めているのは世界でも日本とアメリカの2国だけですが、「いぶき」のセンサーは世界最高性能を誇っています。

観測点はなんと5万6000点！

観測範囲がスゴイ！

「いぶき」は約100分で地球を一周しながら、ひとつのセンサーで地球表面のほぼ全体にわたって温室効果ガスを測定するため、地上や航空機での観測に比べて圧倒的に数多くの地点のデータを取得することができます。その数、なんと5万6000点に。そのため世界各所の温室効果ガスの増減を精度よく算出すことができるのです。

現在の地上観測点（WMO-WDCGGによる）
「いぶき」の観測点（標準モード：5万6000点）